

住み慣れたまちで安心して暮らすために 認知症を正しく知ろう！



認知症は身近な病気です

認知症とは、アルツハイマー病や脳梗塞などが原因で、物事を記憶したり判断したりする機能が低下し、生活に支障がでている状態をいいます。

認知症は誰にでも起こり得る身近な脳の病気です。一般的に高齢者に多く、65歳以上の方のうち認知症の人は推計で15%、85歳以上では推計40%といわれております(厚生労働省研究班)。

社会全体で認知症への理解を深めましょう。

認知症の症状は？

1. 記憶力の低下

- ・同じ話を何度もする
- ・物を無くして探し回る
- ・食事をしたことを忘れる

2. 判断力の低下

- ・場所や時間、人の顔が分からない。
- ・お金の支払いに戸惑う

3. 性格などの変化

- ・怒りっぽくなる、頑固になる
- ・うつ症状や閉じこもりがちになる
- ・落ち着かない

物忘れ = 認知症ではありません

年をとれば誰でも、思い出したいことがすぐに思い出せなかったり、新しいことを覚えるのが困難になったりしますが、「認知症」は、このような「加齢によるもの忘れ」とは違います。



「加齢による物忘れ」と「認知症による物忘れ」の違い(一例)

	加齢によるもの忘れ	認知症によるもの忘れ
体験したこと	一部を忘れる 例)朝ごはんのメニュー	全てを忘れている 例)朝ごはんを食べたこと 自体
物忘れの自覚	ある	ない
探し物に対して	(自分で)努力して見つけようとする	誰かが盗ったなどと、他人のせいにすることがある
症状の進行	極めて徐々にしか進行しない	進行する

認知症は早期発見・早期治療が重要です

症状が軽い段階のうちに認知症であることに気づき、適切な治療を受ければ、薬で認知症の進行を遅らせたり、場合によっては症状を改善させることができる場合もあります。

認知症の早期発見・早期治療につなげるために、自分自身や家族、友人など周りの人について「もしかして認知症では」と思われる症状に気づいたら、一人で悩まず、お近くの地域包括支援センターやかかりつけのお医者さんなどに相談しましょう。



認知症は高齢者だけの病気でしょうか

認知症は高齢者に多い病気ですが、働き盛りの年代でも発症するケースがあり、65歳未満で発症した場合を「若年性(じゃくねんせい)認知症」といいます。家計を支える働き盛りの家族が認知症になってしまったら、経済的な負担や心理的ストレスはとて大きくなります。

若年性認知症に関するご相談も、長寿支援課で受付しておりますので、お気軽にご相談ください。